

夏休み前の全校集会（R8.7.24）

皆さん、おはようございます。

野球の話は最後にすることにして、今日は、ワールドカップの話から始めます。今回、世界一になったのはスペインでした。昨年スペインを訪れたこともあり、日本に次いでスペインを応援していたので、その優勝をうれしく思いました。

ところで、私が印象に残ったのは、スタンドを埋め尽くしたサポーターの姿、そして、さまざまなルーツを持つ選手たちの姿です。

優勝したスペイン代表のニコ・ウィリアムズも、その一人です。ニコはスペインで生まれ育ちましたが、両親はガーナ出身です。

両親は、よりよい生活を求めてガーナを離れ、サハラ砂漠を徒歩で越え、命がけでスペインにたどり着きました。その後、父親は家族を支えるために一人でロンドンへ渡って働き、母親も複数の仕事を掛け持ちしました。

決勝戦の後、ニコはスタンドにいた母親のもとへ行き、優勝メダルを手渡しました。その光景が、目に焼き付いています。メダルは、命がけでスペインに渡り、家族で支え合ってきた長い歴史の先にあったものだと思います。



私たちは、ワールドカップのスタンドで国旗を振っている人たちを見ると、その国から飛行機に乗ってニューヨークまでやって来た応援団だと思いがちです。しかし、実際には、そうした人たちは一部です。

世界には、両親や祖父母が移民として別の国へ渡り、その子どもや孫として生まれ育った人たちがたくさんいます。そうした人たちは、ワールドカップになると、自分や家族のルーツがある国を応援します。

「生まれた国」「育った国」「現在暮らしている国」「家族のルーツがある国」が、それぞれ違う人も少なくありません。

これは、応援する側だけではありません。ピッチに立つ選手たちも同じです。ニコはスペイン生まれますが、父母や祖父母の母国を代表して出場している選手もたくさんいます。

同じ国のユニフォームを着ていても、選手たちの目の色や肌の色、名前などは実に多様です。それは、一人ひとりが、いくつもの国や文化とのつながりを持っているからです。

一方で、日本は外国から移り住む人が多い国ではありません。そのため、様々なルーツを持つ人たちが、同じ国に暮らし、同じ国の代表を応援するという感覚を、少し理解しにくいのかもかもしれません。

本校にも、外国籍の生徒や外国にルーツを持つ生徒がいます。また、2年生の修学旅行では台湾を訪れます。先日は、韓国の姉妹校である正義女子高等学校へ18名の生徒を派遣しました。

こうした機会を、単なる旅行や学校行事で終わらせず、自分とは異なる文化や考え方に触れる機会にしたいと思います。

大切なのはお互いの違いを知り、認め合うことで、ともに生きていくことです。

さて、夏休みを前に、もう一つ、皆さんに考えてほしいことがあります。

昨年末、私は上野動物園を訪れました。パンダが日本を離れると聞き、最後の姿をひと目見ようと思ったからです。パンダを見終え、ゾウ舎の近くを歩いていると、動物慰霊碑が目にとまりました。慰霊碑には、「動物よ安らかに」と刻まれていました。

皆さんは、『かわいそうなぞう』という絵本を知っているでしょうか。この絵本は、太平洋戦争中、実際に上野動物園で起きた出来事をもとに書かれた物語です。

戦時中、東京が空襲を受けて檻（おり）が壊れた場合、危険な動物が街へ逃げ出すかもしれないという理由で、動物たちを処分する命令が出されました。

その中に、ジョン、トンキー、ワンリーという3頭のゾウがいました。

ゾウに毒を混ぜた餌を与えても、鼻でより分けて食べなかったそうです。そこで、餌も水も与えずに死なせる方法がとられました。しかし、ゾウたちは、どうして急に餌をもらえなくなったのか分かりません。

お腹をすかせたトンキーとワンリーは、飼育員の姿を見ると、弱った体でいつもの芸をしたと伝えられています。後ろ脚で立ち、前脚を上げれば、飼育員が喜んで餌をくれると思ったのでしょう。

しかし、飼育員には、餌を与えることは許されませんでした。毎日世話をし、かわいがってきた動物なのに、助けたくても助けられず、死を待たなければならぬ。飼育員にとって、これほど辛いことはなかったと思います。その気持ちを想像すると、胸が締めつけられます。

上野動物園では、ゾウだけでなく、多くの動物が戦争の犠牲になりました。私は「動物よ安らかに」という文字を見ながら、戦争とは何なのだろうと改めて考えました。

戦争で命を奪われるのは、戦場で戦う兵士だけではありません。そこで暮らしている人々、そして何の罪もない動物たちまでが犠牲になります。

ワールドカップでは、異なる国や文化にルーツを持つ人たちが、一つのチームとなり、力を合わせ戦います。ところが戦争は、人を国籍や民族によって分け、昨日まで普通に暮らしていた人を敵に変えてしまいます。

夏休み中には、8月6日の広島原爆の日、8月9日の長崎原爆の日、そして8月15日の終戦の日を迎えます。皆さんには、楽しい夏休みを過ごしてほしいと思います。同時に、ニュースや本、映画などを通して、戦争や平和について、少し立ち止まって考える時間も持ってほしいと思います。

違いを理由に人を遠ざけないこと。相手の立場や背景を想像すること。そして、人の命も、動物の命も大切にすること。その一つひとつが、平和な社会をつくるための第一歩です。

最後に明日の甲子園予選の決勝戦について。春の大会では、相手の方が一枚上でした。しかし、あれから3か月がたちました。今は、もう五分五分だと思います。

選手の皆さんには、自分たちが積み重ねてきた力を信じ、堂々と戦ってほしいと思います。そして、全校生徒の応援で選手たちを後押しし、学校の歴史に新しいページを刻みましょう。